



まなざし



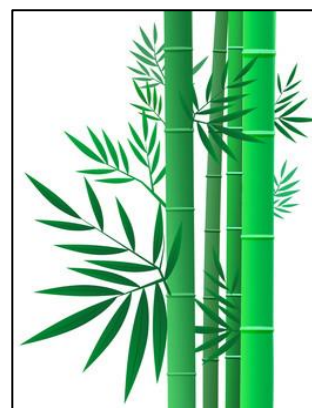
10月号

前期から後期へ

渡辺 隆正

学校生活の中には「節目」と呼ばれるものがいくつかあります。入学と卒業、進級（学年の区切り）、長期休み（学期の区切り）などがそれにあたりますが、その「節目」、「節目」を大切に、成長を確かめながら次のステップに進んでいきます。「節目」という字を辞書で調べてみると、「木材や竹など、節となっている箇所」「物事の区切りとなるところ」と書いてあります。「節目」となる時期を迎えたときには、子どもたちに「節目」の大切さについて、「竹」を例えにして語られることがよくあります。

「竹は節ありて風雪に強し」と言われますが、竹の強さの秘密は節にあり、節のおかげで竹はしなり強靱になります。また、節には病原菌の侵入を阻止する力もあり、さらには、節があるからこそ竹は真っ直ぐ上に強く成長していくそうです。それほど「節」は大切な存在であり、子どもたちの健やかな成長のためには、「節目」を意識させることが大切であり、「節目」を迎えるときや迎えたときには、「節目」を意識した生活を送ることの重要性が語られてきました。そこには、「竹」のように、青い空に向かってすくすくと真っ直ぐ育ってほしいという願いが込められていました。



さて、八百津中学校では、先ほど挙げた入学、卒業、進級、長期休みといった「節目」以外に、もう一つ大切な「節目」があります。それは、前期から後期へと切り替わるこの10月です。

中学校生活は、集団生活ですので、一人一人が何らかの役割を担い、みんなで協力しながらよりよい生活づくりをしています。先日の3年生修学旅行でも、最後までバスに残ってバス内清掃をしたり、乗降のたびに消毒をしたりしていたバス係の人や朝の会で感染対策の徹底をみんなに呼びかけていた学級委員など、自分の係に責任をもって活動する姿が至る所にありました。普段の学校生活でも、一人一人が自分の役割を誠実に果たしながら、誰もが安心して笑顔で過ごせる生活をみんなで創ってきました。しかし、まもなく前期に担ってきた今の役割も終わりとなります。そして、新しい役割を担って後期が始まっていくわけですが、より強固な「節」を作り、さらなる成長につながるには、前期の成長を確かめ、次の目標に向けて新たな歩み出しを始めることが大切です。そのあたりのことをきちんとやりながら、学校では後期の組織作りを行っていきます。この切り替わりの時期には教育通信（通知表）や三者懇談があるわけではありませんが、ご家庭でも、お子様に声をかけ、前期に努力したことや成長したところを親子で確かめ、次の役割に向けて励ましの声かけをしていただけたらと思います。そのことが、きっと竹のように真っ直ぐ伸びるお子様の成長につながるのではないかと考えています。

<保護者の皆様へ>

8月からの全国的な新型コロナウイルス感染拡大に伴い、八百津町内や中学校内でも感染者が増えました。2つの学年において学年閉鎖となり、保護者およびご家族の方々にはご迷惑をおかけしましたが、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。引き続き、学校内では感染対策の徹底に努めて参りますが、ご家庭でも感染予防や健康チェック等に引き続きご協力をお願いいたします。特に、下記の点についてご協力をお願いいたします。

- ・体調に異変があったときには、無理せず家庭で休養する。
- ・健康チェックを毎日確実にし、「すぐーる」で報告する。
- ・休みの日にも体調異変や医療機関受診となった場合は、学校もしくは役場に連絡をする。